

## 桜川および霞ヶ浦の植物について

後 藤 直 和

桜川でボート遊びや釣をする、水辺から川の中にかけてヨシ、マコモ、ガマその他色々な植物が見られることはよく知られているとおりです。ヨシやマコモやガマ知らない人はほとんどいないと思われませんが、そのほかにどんな種類があるかということになると、知っている人は意外に少ないのではないかと思えます。そこでこれらの植物について少し述べてみることにします。

まずその種類ですが上記の三種も含めてあげてみると次のようになります。

### (1) 岸近くに生えるもの

ヨシ、マコモ、ガマ、ミズアオイ、ウキヤガラ

### (2) 葉が水面に浮かんでいるもの

トチカガミ、ヒシ、オニバス、カガブタ

### (3) 水中にあるもの

クロモ、セキシヨウモ、コウガイモ、ハゴロモモ、マツモ、ササバ

モ、キンギヨモ、(別名ホザキノフサモ) エビモ、ヒロハノエビモ、リュウノヒゲモ、センニンモ、ヌマフサモ (別名オオフサモ)

これらの植物はいずれも根が水中または水底の泥の中にあるもので、このほか、岸近くの湿地に生えるものをあげるとさらに多くなりますが、ここではそれらの湿地性植物は省略することになります。

以上の植物の中でガマには、実は「ガマ」「ヒメガマ」「コガマ」の三種類があります。そして土浦付近で見られるのはほとんど皆「ヒメガマ」で他に「コガマ」が少しあり、「ガマ」は見られないようです。植物の名前で「ヒメ」というのがつくのは一般に小型のものの場合が多いのですが、この「ヒメガマ」は決して小さいものではなく葉の長さが二メートル以上にもなり、穂の高さもそれに近い大きな植物です。十年ぐらい前は桜川ではほとんど見られなかったのですが、最近は大分ふえて来たようです。

ミズアオイは、金魚屋などでよく売っているホテイアオイ(ウオーターヒヤシンス)にやや似ていますが、ずっと大型で葉柄が長く(三十センチ以上)ホテイアオイのよう